

## 第4回アジア移民研究会の案内（最新版）

日時：2007年9月29日（土曜日）14時より

前回の案内では13時開始となっていました但変更しました。また、発表者の順番が変わりました。

会場：慶應義塾大学三田キャンパス、第3校舎（大学院校舎）2階323号教室

司 会 : 吉原和男 (慶應義塾大学文学部)  
コメンテーター: 坂中英徳氏 (外国人政策研究所)  
小嶋茂氏 (海外日系人協会海外移住資料館)

<発表1>

発表者：川上郁雄氏（早稲田大学）

論 題：在日ベトナム系住民のジレンマ

—トランスナショナルリティの視点から生活世界を捉え直す—

要旨：1975年の「ベトナム統一」（サイゴン陥落）以降、世界に流出した「ベトナム難民」のうち、日本に定住してきた在日ベトナム系住民の生活世界は、過去30年の間に大きく変化してきた。本発表では、彼らの生活世界に影響を与える内的特性と外的特性による動態性と多義性を分析視点として、過去30年を4つの年代に分け、その生活世界の変化を詳述する。取り上げるテーマは、難民家族の特徴である「分散家族」とディアスポラ性、政治的志向性と宗教ネットワーク、エスニック・アイデンティティの位置性、日本社会側のまなざしとメディア、祖国のイメージとベト・キュー（在外ベトナム人）、多国間ビジネス、ベトナムでの「嫁探し」、1.5世、2世の直面する世代間のコミュニケーションギャップ、国際結婚、就職、帰化、生活保護、高齢化と墓石、「留学出国」と多国間ネットワーク等。さらに近年増加しているベトナムからの研修生と留学生、インターネットによるネットワークと日越間の物流等、新しい影響素因も生まれている。国際政治、グローバリゼーションの影響下にある、現在の在日ベトナム系住民の置かれた状況をトランスナショナルなコンテキストから捉え直すことをめざす。

<発表2>

発表者：池上重弘氏（静岡文化芸術大学）

論 題：浜松市の南米系外国人について —2006年生活・就労実態調査の結果から—

要 旨：浜松市では1992年より3～4年に一度、南米系外国人を対象とした調査を行っている。2006年に報告者らが浜松市から受託して行った生活・就労実態調査は、それらの継続調査としての性格を有する。雇用・労働、医療・保険、地域生活、日本語学習、教育など、従

来の調査項目に加え、ストレスや社会的ネットワークなど、新しい項目も盛り込んだ。現時点ではまだ単純集計レベルだが、いくつかの注目すべき事実を紹介し、その背景について考察したい。

## < 予告 > 第5回アジア移民研究会

日時：2007年10月27日（土曜日）13時より

会場：慶應義塾大学三田キャンパス、第3校舎（大学院校舎）2階323号教室

司会：吉原和男（慶應義塾大学文学部）

### < 発表1 >

発表者：横田祥子 氏（首都大学東京）

仮テーマ：「台湾のベトナム人女性について」

コメンテーター：藤野陽平 氏（東京外大アジアアフリカ言語文化研究所）

### < 発表2 >

発表者：柳 蓮淑 氏（関東学院大学）

仮テーマ：「国外へ婚出する韓国人女性について」

コメンテーター：浅川晃広 氏（名古屋大学大学院国際開発研究科）

第4回、第5回とも終了後に懇親会を開催する予定です。

問い合わせ先：吉原和男 <yoshiharak@flet.keio.ac.jp>

なお、第6回研究会を2008年1月12日（土曜日）午後  
に開催します。